



文化創造研究科長・散文領域
清水良典教授

専門：現代日本文学、文芸評論、クリエイティブ・ライティング
1976年 立命館大学文学部日本文学専攻卒業
1996年 愛知淑徳短期大学助教授
2000年 愛知淑徳大学文化創造学部助教授
文芸評論家として著作も多く、新聞、雑誌等にも多数執筆

創造的な表現活動を行える 知識と技能を備えた 人材を育成する。

文化創造研究科は、既設の文化創造学部を基礎として2004年に開設。当初は創造表現と国際交流の二専攻体制でしたが、4年後に国際交流専攻がグローバルカルチャー・コミュニケーション研究科に統合・再編されたため、2008年からは創造表現専攻のみとなりました。これまでに49人（創造表現専攻29人、国際交流専攻20人）の修了者を送り出し、現在は2年生8人、1年生3人の計11人が在籍しています。

韻文、散文、視聴覚の 三領域から構成

清水教授 文化創造学部表現文化専攻のゼミの2年間だけでは、全国に通用するようなレベルの書き手、制作者を輩出するのが難しいということからできたのが文化創造研究科創造表現専攻です。創作を主とする修士課程の研究科というのは全国でも珍しく、特に中部圏ではおそらく初めてです。

角田教授 愛知淑徳はもともと短期大学の国文学科の頃から創作に力を入れていました。それが文芸学科となつて視聴覚分野も強化し、大学の文化創造学部表現文化専攻へと引き継がれています。小説や詩などの創作を基本に、幅広い分野を研

究面でも教えていくという姿勢は一貫しており、それが拡充に拡充を重ねて現在の研究科になっています。

清水教授 現在は韻文、散文、視聴覚という三つの領域に分かれ、それぞれ全国的に一流の先生をお呼びして講座を持っていたっており、相当レベルが高いのではと自負しています。

たとえば詩では、日本の現代詩を代表する荒川洋治先生や八木幹夫先生、映画では映画監督の一尾直樹先生、名古屋シネマテークの支配人、平野勇治先生など。こうした実作者や、業界の専門領域で働いておられる方に直接、指導していただけているというのは、本研究科の大きな特色ではないかと思います。

他領域の演習への参加で 広い視野と経験が身に付く

清水教授 学生は特定のジャンルをより深く極めたいと進学してきます。しかし、たとえば小説を書きたいという人が小説を書いているだけでは単位を取れないため、他ジャンルの授業も受講することになります。結果、広い視野と経験が身に付くというのも特色です。

たとえば、椋山女学園大学を出て本研究科に入り、私のゼミで作家研究をした女性がいいます。彼女は荒川先生の現代詩の授業を取っていたのですが、修了後に詩を書き始めて最近、文芸誌の『新潮』でデビューを果たしました。本研究科の複眼的な学習方法が実を結んだ一例だと





左：創造表現専攻 散文領域1年 高木純子さん
右：創造表現専攻 散文領域2年 杉浦ゆいさん



左：創造表現専攻 視聴覚領域2年 大森一摩さん
右：創造表現専攻 韻文領域2年 土谷美沙緒さん

文化創造研究科創造表現専攻 (修士課程)

韻文領域

現代詩と現代短歌に関する理論研究・テキスト研究と創作演習を行います。

散文領域

小説・評論および童話に関する理論研究・テキスト研究と創作演習を行います。

視聴覚領域

映画とアニメ・コミックの2ジャンルから構成され、共に理論研究を目的とします。

※学部教育でのそれぞれの領域の研究、創作をさらに高度化・専門化していきます。韻文領域・散文領域では、創作理論と連動し、より実践的な演習を行います。



散文領域

酒井晶代教授

専門：児童文学、児童文化

1991年 大阪教育大学大学院教育学研究科
国語教育専攻修士課程修了

1998年 愛知淑徳短期大学助教授

2000年 愛知淑徳大学文化創造学部助教授



視聴覚領域

角田達朗教授

専門：中国思想史、現代演劇

1995年 名古屋大学大学院文学研究科

後期課程東洋哲学専攻満了

2000年 愛知淑徳大学文化創造学部助教授

清水教授 実作者は実作について

大森さん もちろん単位を取らなければいけないという理由もありますが、そこで他の領域のことを初めて知り、表現について考える機会を持てるのはいいことだと思います。

角田教授 大森君の専攻は漫画や

アニメの研究で、文学の研究の応用として行っていることが多いですね。そのため、文学研究などの方法論をきちんと学べるのはプラスになっていると思います。

必要で、大事なことだと思います。

遠慮のない合評会で成長

清水教授 皆さんが研究科に進学

した理由は？

大森さん 学部の際に取り組んだテーマを、さらに掘り下げて研究したいと思ったからです。その研究について角田先生に興味を持っていたので、進学しました。

土谷さん 私はもともと舞台関係の仕事をしたくて大学に入りましたが、3年の時、島田修三先生の現代短歌ゼミに入り、現代短歌についてより深く学びたいと大学院に進みました。

杉浦さん 私は臨床心理士を目指してコミュニケーション心理学部に入りましたが、心に問題を抱えた子どもたちを受け入れている施設に行った時、子どもには治療ではなく教育の方が必要ではないかと思いました。相談した先生から、文学は他者の目線でもの事を考えられるからと勧められ、国語の先生を目指すこ

とにしました。学部の際に公民の一種免許は取りましたが、研究科へ来てから国語科の専修免許の取得を目指しています。

酒井教授 本研究科では中高の国語の専修免許が取得できます。すでに学部で一種免許状を取得している学生もいますが、杉浦さんのように大学院に入ってから取るとうと頑張る者もいます。

高木さん 私は専門学校で小児看護学を教えていましたが、文学を学問として学んでみたいとずっと思っていました。修士論文で創作ができる大学院を探したところ、自分がやりたいことに合っていたのと、子どもが愛知淑徳大学に通っていたので、こちらに進むことにしました。

清水教授 高木さんは私の授業も受けていますが、すでにプロのように旺盛に書いておられる。でも合評会をすると、ほかの学生はスケスケと無遠慮に批判します(笑)。

高木さん 楽しいです(笑)。ほかの学生さんと比べて年齢が上なので少し不安でしたが、対等に受け入れてもらえてありがたいですね。

酒井教授 高木さんはたくさん授業を受けていますね。

高木さん 半年間で必要な単位はほとんど取ってしまいました。愛知淑徳大学は学部の授業も履修できるので、修了後、仕事に生かせるように、後期から健康医療科学部の医療の授業を受ける予定です。

杉浦ゆいさん

愛知淑徳大学コミュニケーション心理学部コミュニケーション心理学科卒業

●修士制作：タイトル未定。人間の自己愛を、人格障害を通して書いていくつもりです。指導教員は清水良典教授。

学部の時、文章表現の授業で清水先生の「高校生のための文章読本」を教科書として読み、清水先生を通じて国語を教えることはということなのかを学びたいと思いました。



創造表現専攻 散文領域1年

高木純子さん

10代から作詞を始め、プロとしても活躍。5年ほど前、愛知淑徳大学の公開講座で堀尾幸平先生の童話の講座を受講したのをきっかけに童話を書き始める。現在、小児看護学専任教員を休職して、本研究科へ。正看護師、医療福祉環境コーディネーター、医療コンシェルジュの資格も持つ。

●修士制作：童話作品。

受賞歴：子どもに児童文学賞入選、佳作、優秀賞。名古屋市民文芸祭市長賞。名古屋市教育委員会賞、文化振興事業団賞ほか多数。指導教員は酒井晶代教授。



左より、視聴覚領域 角田達朗教授
散文領域 清水良典教授
散文領域 酒井晶代教授

一生、素人でも、夢を持って生きがいを感じながら
創造的な生活を楽しむ。それも文化です。——清水研究科長
勉強して楽しかったという思い出を持って修了してほしい。——角田教授
領域間の敷居が低く、学生の興味、関心の幅が広い。——酒井教授

修了後の進路は就職、 後期課程への進学など多様

清水教授 修了後の進路ですが、

短大の文芸学科時代から数えると、作家などプロとして活躍している人が数名います。

酒井教授 ミュージカルが好きで劇団四季の営業部に入った修了生もいます。

角田教授 大森君は、将来は？

大森さん 現在の研究に関わりのある仕事に就くか、他大学の視聴覚に特化している博士課程に進むか、決めあぐねている状態です。

清水教授 学究方面に進学する修了生も増えていきますね。私のゼミで自分史について優れた修論を書いたあと、名古屋大学の博士課程に進んで、ずっと同じテーマで研究をしている女性がいいます。

酒井教授 立教大学の研究科に入った修了生もいました。逆に、他大学からこちらの研究科に入ってくる学生もいます。同志社大学から来た学生はインターネットで調べて

本研究科に進学し、現在は東京でライターをしています。児童文学の研究がしたいと入ってきたのは、愛知教育大学の卒業生でした。

清水教授 他大学の研究科に進むというのは結構リスクが高いので、それでも受験するというのは、相当の覚悟とモチベーションがあると思いますね。

一流の創作者の言動を 身近で見ることの贅沢

清水教授 本研究科に入ってから、たことは何ですか。

大森さん 先生たちとの距離が近くなったことです。それと勉強を続けるうちに、自分が気付かなかったことを発見した時は、楽しい嬉しいですね。

土谷さん 学部のゼミは学生が15人もいたので、教授と一対一で話す機会は減多になく、教えてもらおうという受け身の姿勢でした。でも今は先生方といういろいろなことについて積極的に話せます。

高木さん 私はもともと読書した

り創作している時間が一番幸せでしたが、今はそんな時間ばかりでとても嬉しいですね。初めて自分の人生を生きようという感じがします。酒井先生にはつきっきりで指導していただき、お得感もあつて（笑）、とてもありがたいと思っています。

杉浦さん いろいろな分野から来た院生の方や先生と話すことで、自分の価値観は結構ステレオタイプだったかもと思うようになりました。作品の合評会で批評を受けて、読み手のことを考えて書くようになり、成長できたかなと思います。

清水教授 島田先生や荒川先生など一流の創作者のそばにいて、話し方やものの考え方、しぐさなどを身近に見られるというのは、とても勉強になると思います。授業でマンツーマンに近いような形で話を聞いた、人間としての魅力、人柄、生き様というものを身近で吸収できるというのは、普通では得られない贅沢な経験です。

酒井教授 全く同感ですね。学部と違って少人数なので、是非その時

文化創造研究科



創造表現専攻 韻文領域2年

土谷美沙緒さん

愛知淑徳大学文化創造学部文化創造学科表現文化専攻卒業
●研究テーマ「現代短歌における非日常と言葉の有効性」。日常を少し違う角度からみることで切り離された空間(非日常)を作り、客観的な視点から描きだす。また、言葉の持つ可能性を自身に取り込み、新しい短歌表現を目指します。

修了後は働きつつ、指導教員の島田修三教授の下で勉強を続けるつもりです。目標は「短歌研究」などの新人賞。



創造表現専攻 視聴覚領域2年

大森一摩さん

愛知淑徳大学文化創造学部文化創造学科表現文化専攻卒業

●修士論文：アニメ・コミックにみられる象徴的表現からの作品分析。指導教員は角田達朗教授。

将来は就職、研究者への道に関わらず、現在自分のやっていることと多少でもいいので重なるところへ進みたいと考えています。



夏休み、社会人向けに ワークショップを開催

それと私は大学院で勉強するのがすごく楽しくて、いろいろなことが自分の力で分かっていく面白さが快感でした。あの快感がなければ人は学問なんてしないと思います。院生の皆さんには、勉強して楽しかったという思い出を持って修了してもらいたいですね。

酒井教授 研究科の特色として、夏休みにワークショップ科目という、短期間で作品を完成させる実作講座を設けています。研究科の創設当初からありますが、数年前からNHK文化センターと提携して行うようになりしました。小説、童話、短歌、現代詩など6領域を開講しています。

清水教授 小説なら堀田あけみ先生、稲葉真弓先生など、先生方はそういう顔ぶれです。

酒井教授 受講者は高校生から年配の方まで幅広いですね。学部の4年生や修了した院生が受けることもあります。

土谷さん 私は現代短歌の実作演習を学部の4年生から2年続けて受けていますが、年配の方の歌は普段ゼミで作っている作品と全く違って、衝撃的でした。

清水教授 世の中には創作したいという方が10代から70代80代までたくさんおられます。どんな文学賞でも二千通以上の応募があります。そういう方がカルチャーセンター以外で学べる場というのは、特に大学ではほとんどありません。そうしたニーズを少しは満たしているのではないかと思います。

学部再編に伴い、 研究科も再編を構想中

清水教授 本学の学部では今年から大規模な再編成がスタートしました。文化創造学部の表現文化専攻はメディアプロデュース学部のクリエイティブライティングコースへ変わり、文章系のコースに特化しました。これに伴って研究科も文章系の専門領域を特化させる形とし、視聴覚系の領域も大学院のどこかで専門的な専攻となるように構想中です。

角田教授 おそらく現在より大きな枠の中で、各領域が連携しやすい環境に再編されるのではないかと思います。たとえば文化創造研究科は創作本位といいつつ研究的な領域もかなりあるので、国文学科等と連携する余地もあるわけです。それと研究科のスタッフとして、私

たちは創作分野の専門教育機関のパイオニアとしての責任があると思っています。研究領域の大学院では、修士の論文ならどのぐらいのレベルが合格かということが大体分かりますが、創作ではどうか。我々がきちんとした尺度で修士制作を評価し、世に出すという仕組みを作ることが求められていると思います。

酒井教授 日本国内では模範になるものが少ないので、そのあたりは日々模索しています。

清水教授 アメリカには創作部門を持つ大学がたくさんありますが、たとえば出版社の編集者が直接、授業に来て新人を発掘し、卒論をそのまま出版するという青田買いや産直制度のようなことが行われています。しかし私はそこまで商業主義になる必要はないと思います。

原稿料だけで食べていける作家というの、日本では100人程度しかいないようです。けれど一生懸命で、仕事をしながら、家計簿を付けないながらこつこつ書く喜びがあってもいい。夢を持って生きがいを感じながら創造的な生活を楽しんでいい。それも文化だと思っています。

商業主義的な意味での成功をレベルとすると、養成機関、専門学校化してしまいます。大学は教育機関なので、教育として創作をするということはどういうことを、我々自身も学びながら基準を作っていくところなんです。